保護増殖の取り組み

シマフクロウは、日本国内（北方領土を除く）で、72つがい165羽程度（2017年度確認数）しか生息しておらず、絶滅のリスクが非常に高い種です。そのため、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）上、国内希少野生動植物種となっており、保護増殖事業計画を策定し、様々な保全活動を関係者と連携し行っています。

1 給餌事業

1984年から、繁殖率と幼鳥の生存率の向上を目的に、主に河川環境の悪化で餌の魚類が乏しいと危惧される地域で冬季を中心に実施。

2 巣箱設置・管理

1984年から実施。営巣には、太さが約1mの大きな広葉樹の樹洞が必要。しかし、過去の森林伐採等により、大径木が少なく、育つまでに数百年かかる。そのため、巣箱の設置、外敵のクロテン等の侵入防止対策等を実施。

3 標識調査

1985年から実施。個体識別や分散状況の把握等のために巣立ち雛に標識を装着。また、繁殖状況、栄養状況、性別、DNA情報等の個体情報を収集し保護事業に活用。

4 傷病対応、事故防止対策

交通事故、感電事故が主な死亡原因なので、事故対策等を道路管理者や電力会社等の協力により実施。野生復帰可能なものはリハビリ後に放鳥。

5 生息環境整備

生息環境そのものを整備していく取組。営巣地である森林環境や、餌場となる河川環境の整備に関して、関係機関と連携しながら実施。

ご協力のお願い

シマフクロウは、まだ生息数が限られているため、保護の観点から、生息場所等は公表していません。また夜行性で主に森林内で生息していますので、野生個体を見ることは容易ではありません。

シマフクロウはまだ個体数も少なく1回の繁殖成否が個体群全体に影響します。特に繁殖中の巣に近づくと、巣を放棄してしまうなど、繁殖の失敗を招く恐れがあります。また、人が近づくと臭いが残り、捕食者であるキツネやクロテンを誘引する可能性があります。このため、巣箱や営巣を偶然見つけたり、情報を知った場合も、特に繁殖期間（1月~6月）は近づかないでください。

個体を見かけた場合は、大声を出す、近づく等の行為をしないでください。追いかけたり、フラッシュ撮影等はいやがらせ行為になります。撮影した写真や目撃情報についても、位置等がわかる情報はSNS等で公開しないでください。

環境省や関係者は、シマフクロウが安心して暮らせる環境作りや保護の取組を行っています。上記ルールを守っていただくことでシマフクロウが安心して暮らせる環境作りにつながり、将来的に、安定的に増えてくれば、いつか皆さんが野生下で見られる機会も多くなると思います。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

連絡先

発行　北海道地方環境事務所
　　釧路自然環境事務所
〒085-8639
北海道釧路市幸町10-3 釧路地方合同庁舎4F
TEL:0154-32-7500　FAX:0154-32-7575

写真協力／山本 純郎　竹中 健

〈B20210326-1〉

シマフクロウ

つなげるいのち

釧路自然環境事務所

どんなものを食べているのか？

主要な餌は、オショロコマ、サクラマス（ヤマメ）、ウグイ、ハナカジカ等の河川魚類、スナガレイ等の浅瀬の海水魚、秋に回遊遡上するサケ・マス等の魚類です。他にネズミ等の小型哺乳類、小～中型の鳥類、エゾアカガエル、ザリガニ等、多様な生き物を食べることが確認されています。

どんな所にすんでいるのか？

生息地は、主食となっている魚類が豊富に生息している河川、湖沼の周辺部で、繁殖に必要な樹洞のあるミズナラ、ハルニレ、カツラ等の広葉樹大木を含む広葉樹林～針広混交林に生息しています。また、1年を通じて同じ地域に定着し、河川沿いに10kmにも及ぶ行動圏を持っています。家族単位で生活し、縄張り性が強く、別の個体を寄せ付けません。

シマフクロウとは

〈和名〉**シマフクロウ**
〈学名〉*Ketupa blakistoni blakistoni*　〈英名〉Blakiston's fish owl

目名・科名	フクロウ目 フクロウ科
環境省レッドリスト	絶滅危惧IA類（CR）
分布	北海道、国後島、ロシアサハリン島に分布する（別亜種はロシア極東地域を中心に生息する）。
形態	全長66～69cm、翼開長約180cm。
減少要因	土地利用開発や森林伐採による生息地や営巣地の消失、河川開発等による餌資源の減少。

巣内の幼鳥

世界最大級のフクロウ

夜行性、魚類を主食とする。
広い縄張りを形成し、
広葉樹大径木の樹洞に営巣する。

つがいの子育て

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
親鳥		交尾	産卵		子育て（巣内）			子育て（巣外）						交尾	産卵
幼鳥			卵	ふ化		巣立ち			親と共に餌を捕る訓練					そろそろ独立※	

※親から独立する時期には個体差があり、さらに一年後の春になることもある。